

令和元(2019)年度の労働相談状況について

令和2(2020)年7月31日
栃木県産業労働観光部労働政策課

県では、県内4か所の労政事務所及び労働政策課において、労働条件や職場における人間関係など労働問題全般にわたる幅広い相談に応じています。

令和元(2019)年度の労働相談状況を取りまとめた結果は以下のとおりです。

1 労働相談件数

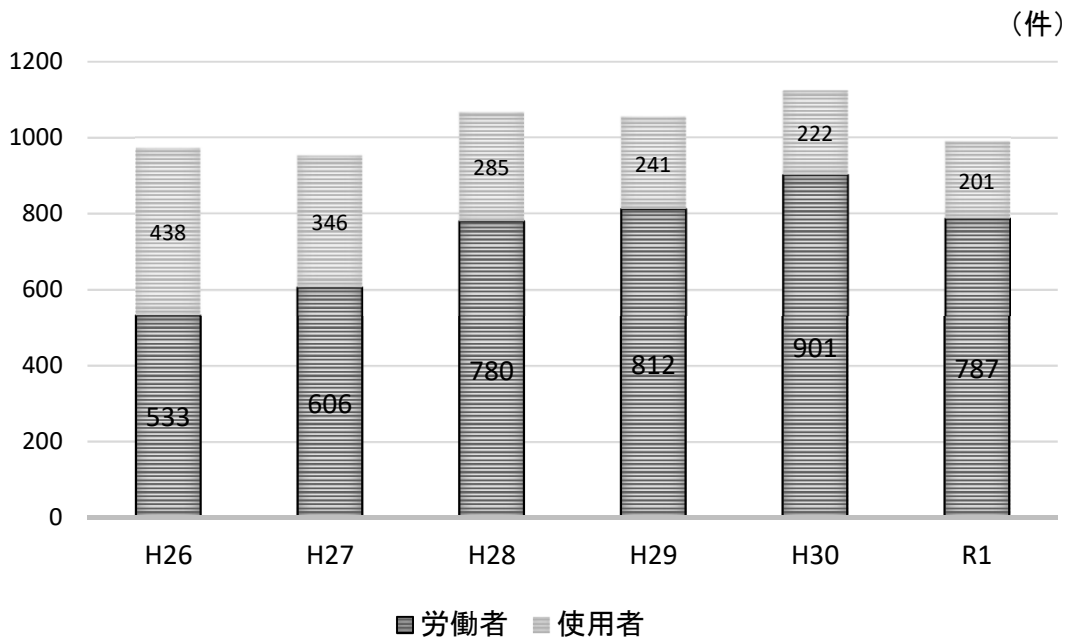
令和元(2019)年度の労働相談件数は988件で、前年度と比べると135件減少、12%の減となり、4年振りに1千件を下回った。

図-1 (件)

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1
労働者	533	606	780	812	901	787
(構成比)	54.9%	63.7%	73.2%	77.1%	80.2%	79.7%
(対前年度比)	84.1%	113.7%	128.7%	104.1%	111.0%	87.3%
使用者	438	346	285	241	222	201
(構成比)	45.1%	36.3%	26.8%	22.9%	19.8%	20.3%
(対前年度比)	124.1%	79.0%	82.4%	84.6%	92.1%	90.5%
計	971	952	1,065	1,053	1,123	988
(対前年度比)	98.4%	98.0%	111.9%	98.9%	106.6%	88.0%

図-2

相談件数

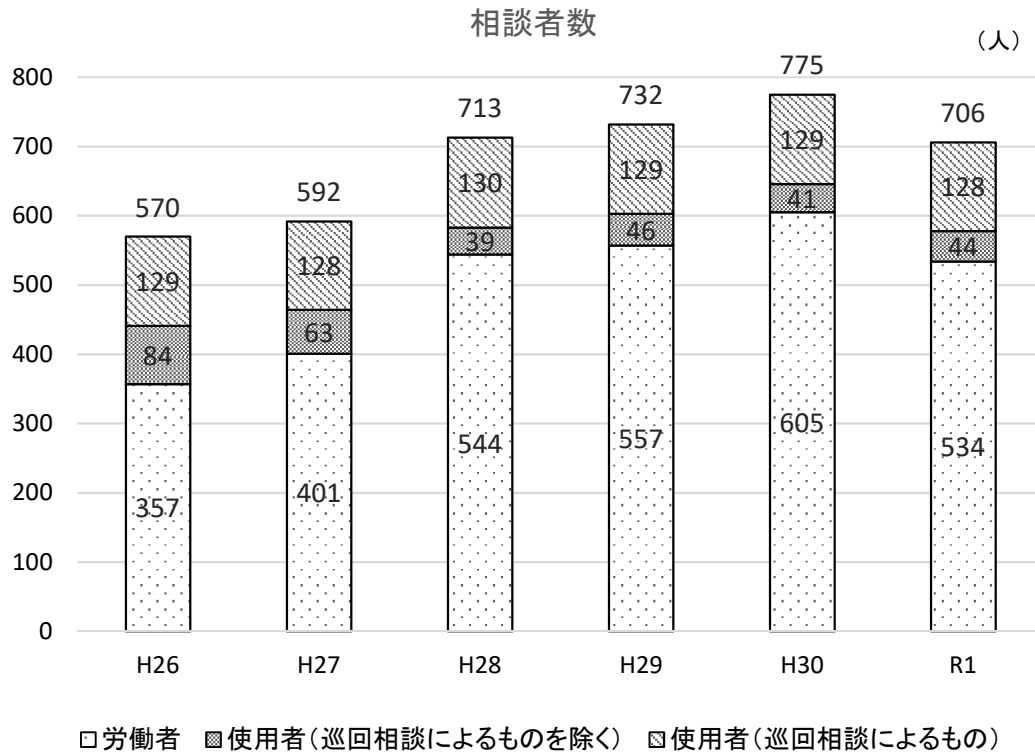


2 労働相談者数

令和元(2019)年度の労働相談者数は706人と、前年度の775人に対して69人、8.9%の減となった。うち、労働者からの相談が534人であり、前年度の605人に対して71人、11.7%の減であった。

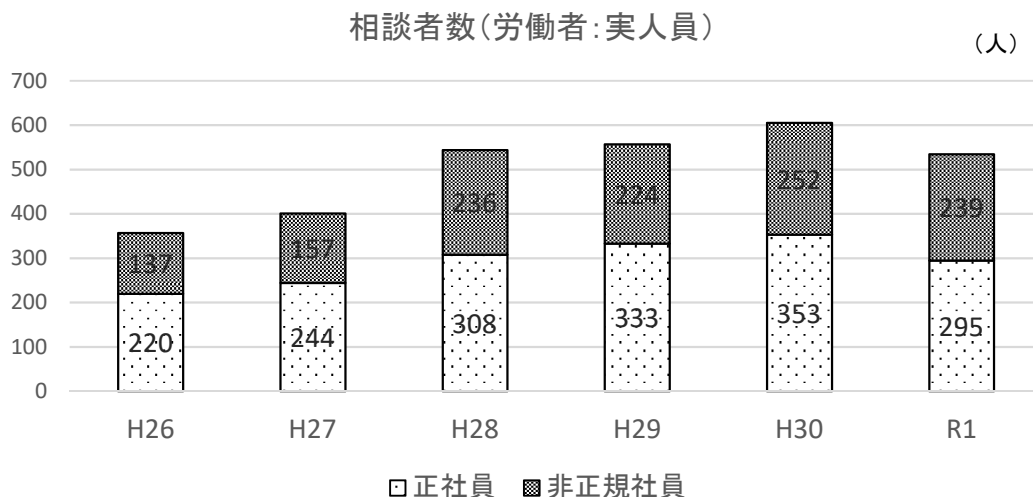
使用者からの相談は年ごとに増減はあるものの、ほぼ横ばい傾向にあるが、労働者からの相談は減少した。

図-3



平成26(2014)年度から増加傾向にあった労働者からの相談だが、令和元(2019)年度は正社員及び非正規社員どちらからの相談についても、減少した。

図-4



3 相談内容別件数(労働者)

労働者からの相談(787件)のうち、最も多かったのは「労働条件」であり、次いで、パワハラ・いじめなどの「人間関係」となった。

最も多かった「労働条件」の内訳では、「労働時間等」、「賃金」、「退職金」、「解雇等」の順で相談件数が多かった。

図-5

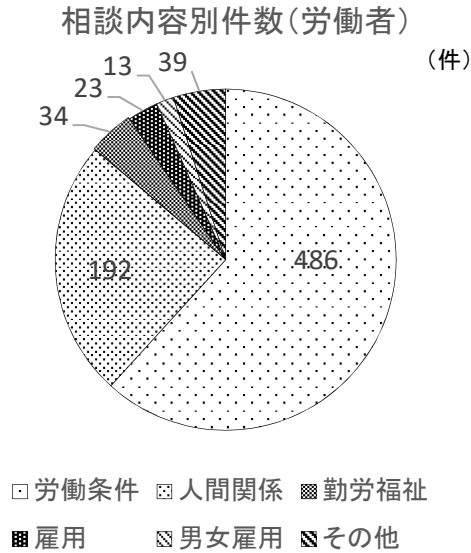


図-6

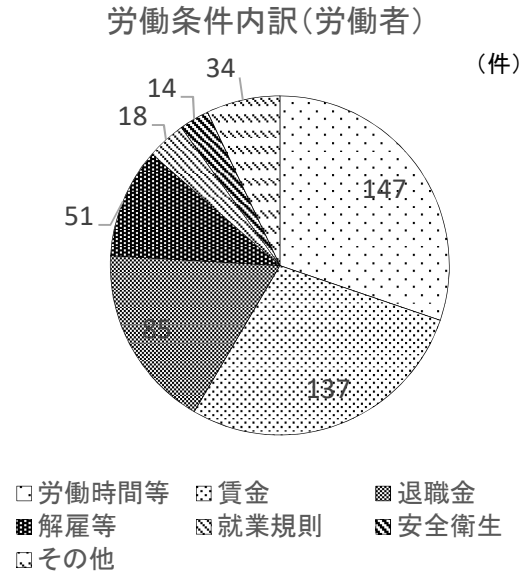


図-7

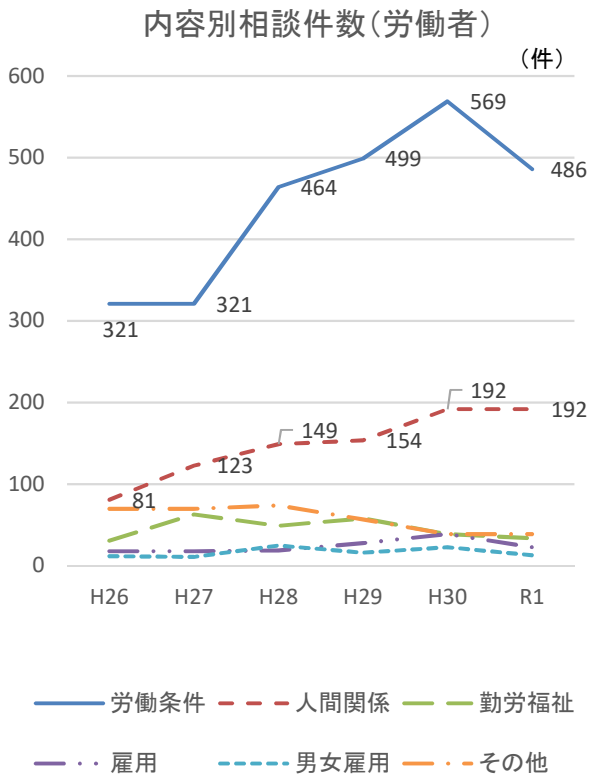
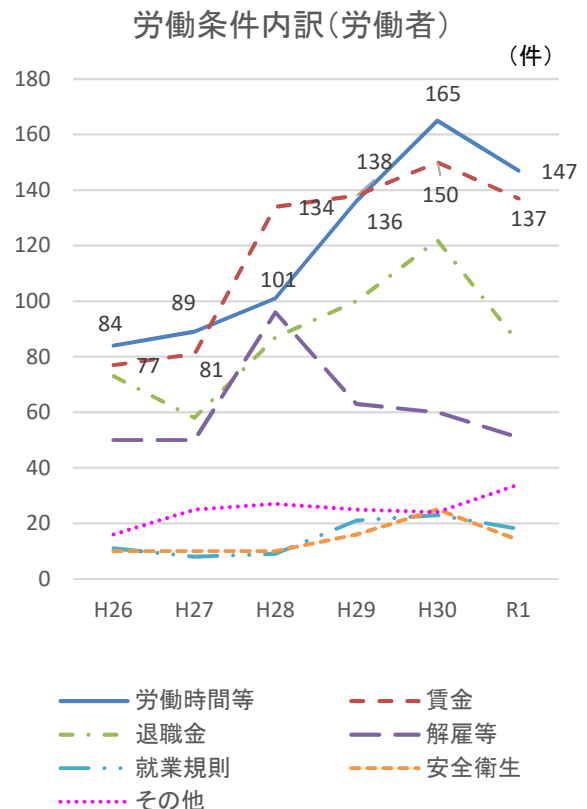


図-8



4 相談内容別件数(使用者)

使用者からの相談(201件)のうち、最も多かったのは「労働条件」であり、次いで、高齢者雇用・配置転換などの「雇用」となった。

最も多かった「労働条件」の内訳では、「労働時間等」、「就業規則」の順で相談件数が多かった。

図-9

内容別相談件数(使用者)

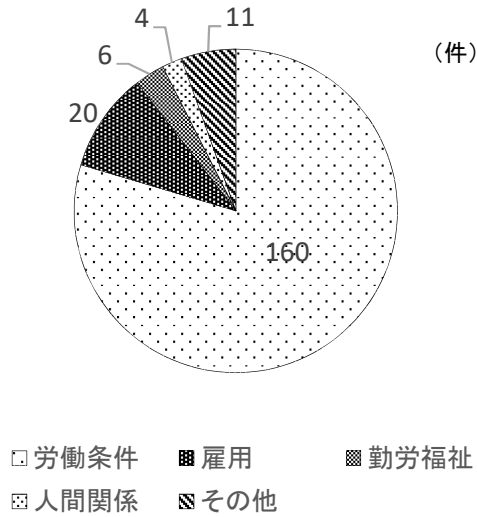


図-10

労働条件の内訳(使用者)

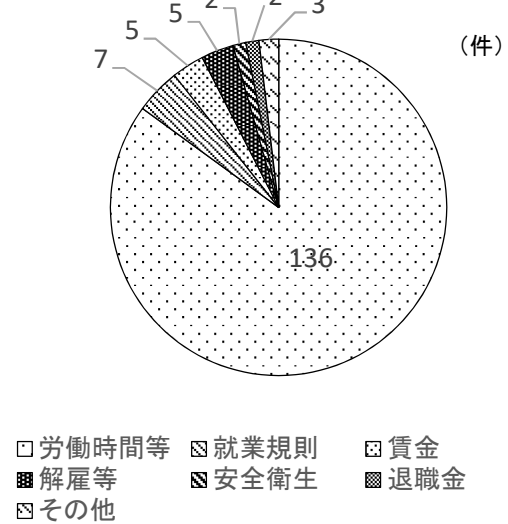


図-11

内容別相談件数(使用者)

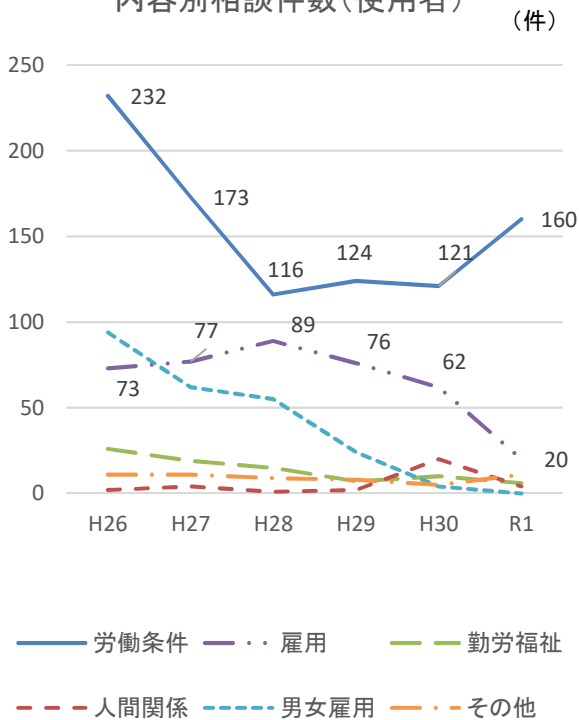


図-12

労働条件内訳(使用者)

